

ロボット・テクノロジー関連株ファンド —ロボテック—

ロボット・テクノロジー関連株ファンド —ロボテック— (為替ヘッジあり)

ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) —ロボテック(年1回)—

ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) —ロボテック(年1回)— (為替ヘッジあり)

追加型投信/内外/株式



— **Robotech** —
ロボットによる新たな産業革命、始動。

「投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求・お申込みは…

設定・運用は…



りそな銀行 埼玉りそな銀行

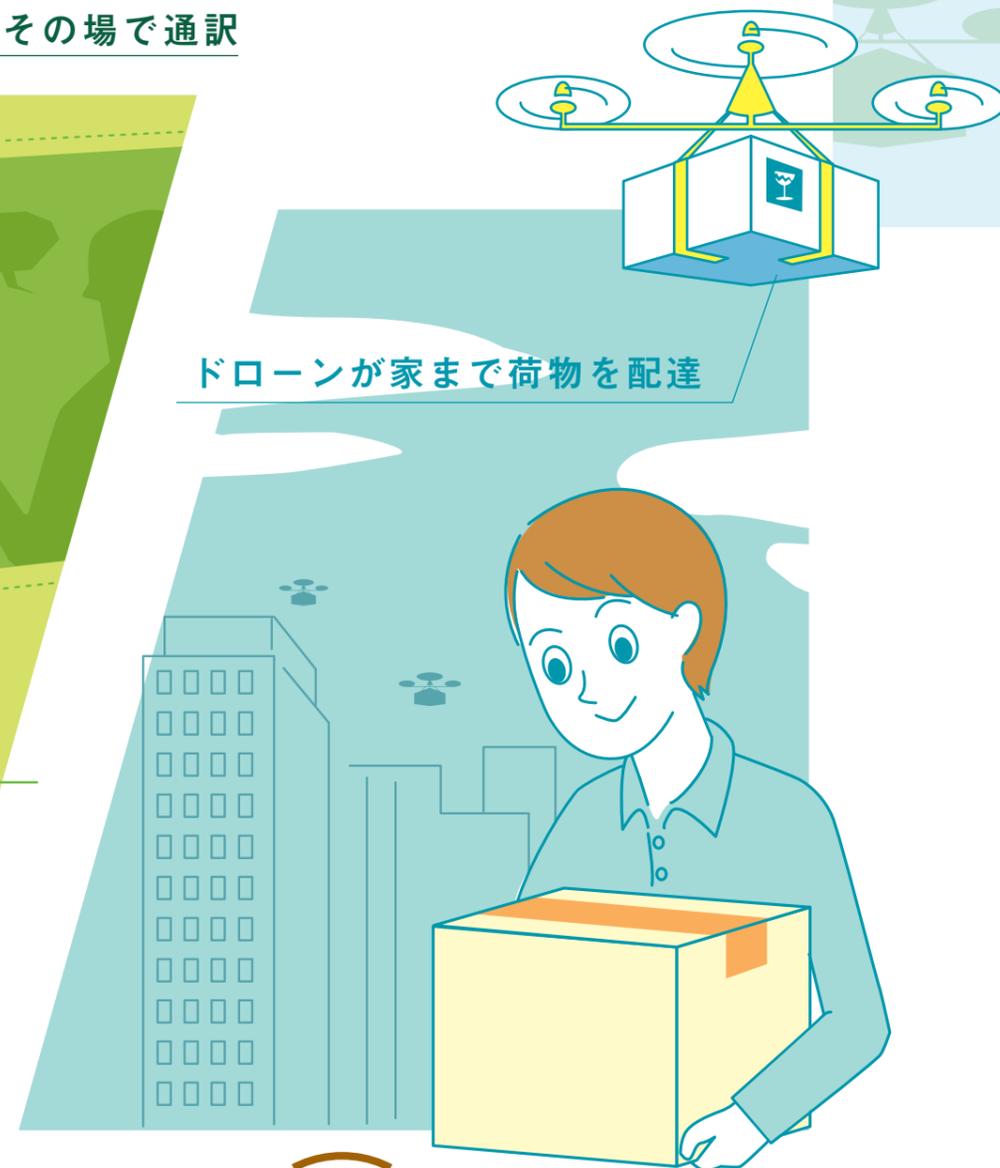
株式会社りそな銀行
登録金融機関 近畿財務局長(登金)第3号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

株式会社埼玉りそな銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第593号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人金融先物取引業協会

大和アセットマネジメント

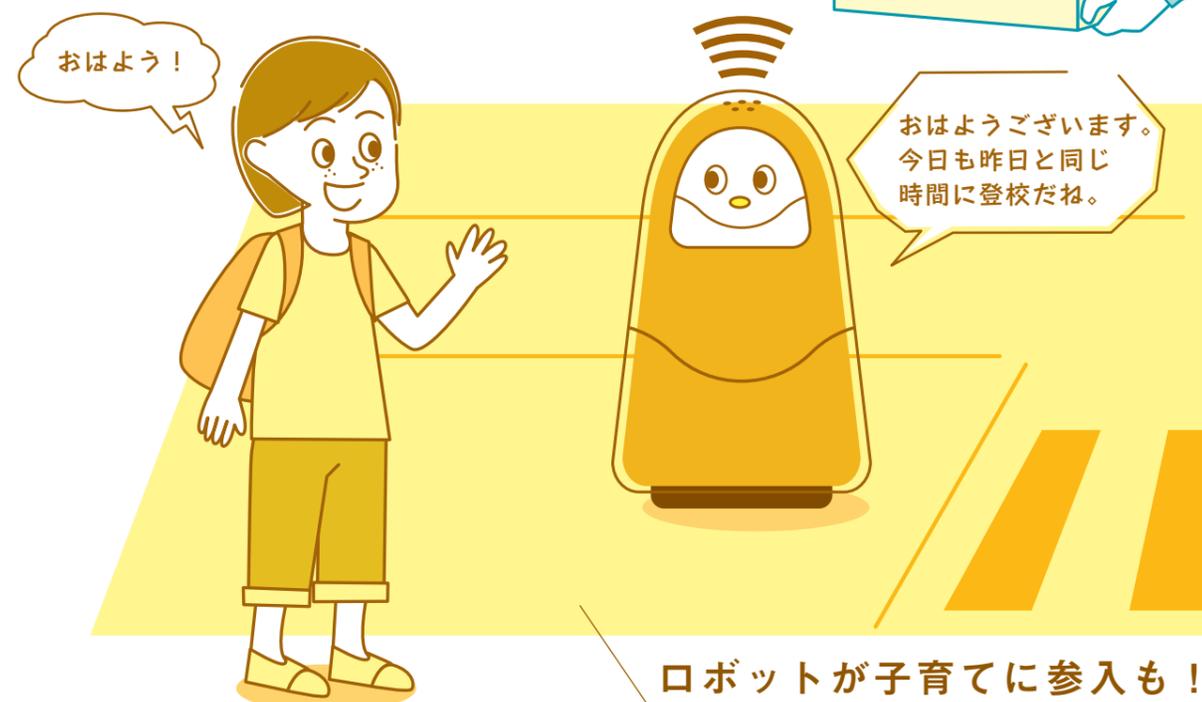
Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会



この未来はすぐ側まで来ています。

ロボット・テクノロジーは今後ますます進化していくでしょう。
人生100年時代、私たちの暮らしはずっとロボット・テクノロジーとともにあります。



ロボット・テクノロジー革命

それは、今まで人々が行なってきたこと、もしくは行なうことができなかったことを自動化・省力化することで、**より効率的な、より安全な、より快適な社会へと変革をもたらします。**

高齢化により労働人口が減少していることや、これまで労働力の担い手だった新興国において賃金が上昇していることで、世界の労働コストは押し上げられています。この社会の構造的な問題を解決するため、自動化や省力化による生産性・利便性の向上が不可欠です。

また、安全性の向上や小型化の実現などにより、ロボットの適用範囲は拡大を続けています。

さらにコネクティビティ(ネットワークにつながる能力)の向上、人工知能(AI)やビッグデータ分析などの先端技術の急速な進歩がロボット・テクノロジー革命を促進しています。

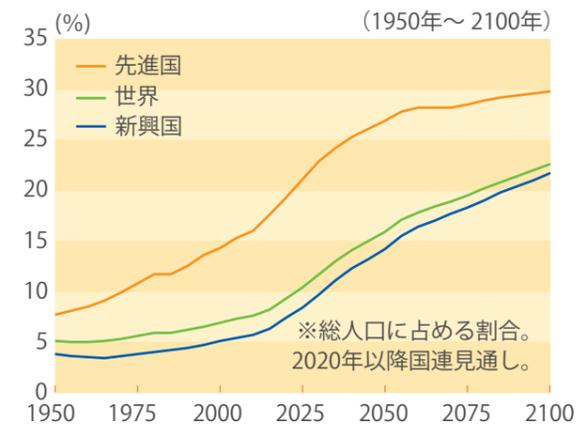
ロボット・テクノロジーへのニーズは高まり、適用範囲の拡大と先端技術の取り込みにより、ロボット関連産業は飛躍的な成長が見込まれます。



ロボット・テクノロジー革命拡大の背景

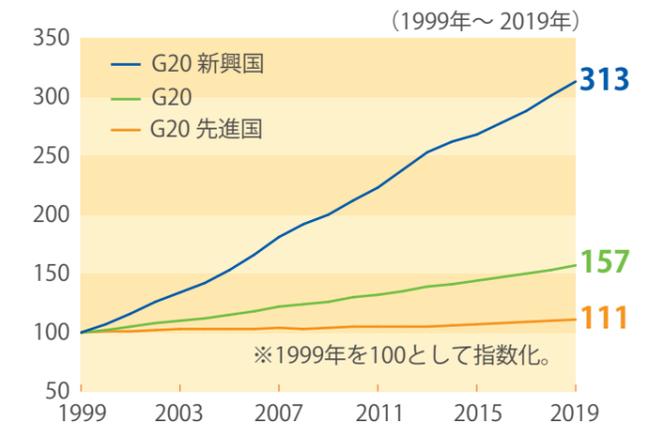
世界で進む高齢化

世界の65歳以上年齢の推移 (1950年～2100年)



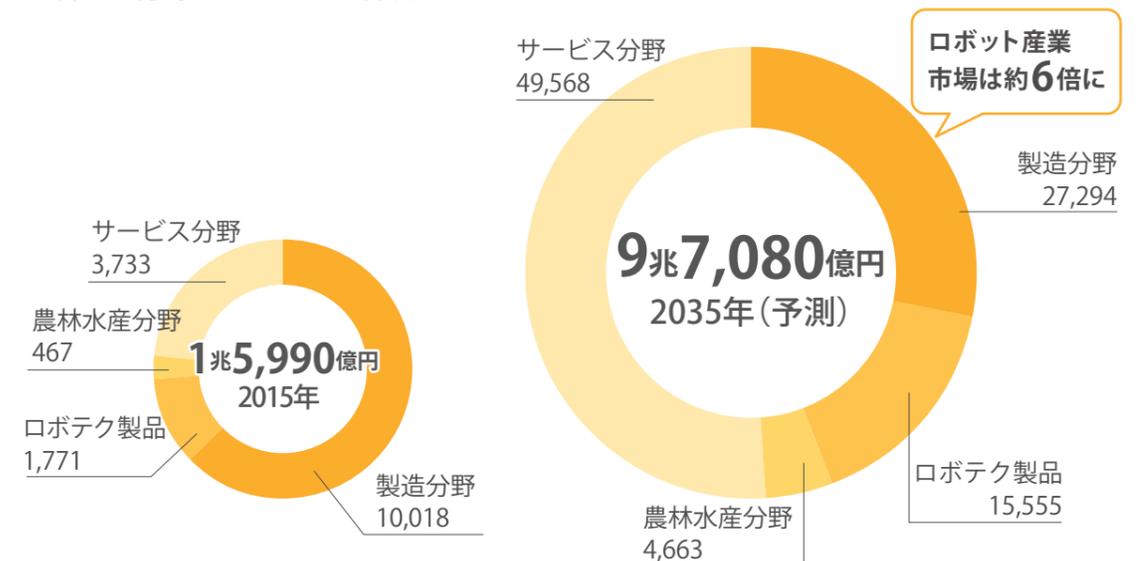
新興国中心に賃金が上昇

実質賃金の推移 (1999年～2019年)



ロボット産業の市場予測

製造分野を中心とした現在の市場拡大に加え、医療や警備などのサービス分野をはじめとする新たな分野へロボットは普及



(出所) World Population Prospects 2019, ILO「Global Wage Report 2020 / 21」、経済産業省、各種資料を基に大和アセットマネジメント作成

技術革新が ロボット・テクノロジー革命を促進

ロボット・テクノロジーは、大量の情報を分析し判断する**頭脳**、情報を感知し伝達する**神経**、頭脳・神経からの情報に基づき正確に作動する**ボディ**の3要素に分けられます。近年、頭脳・神経は先端技術の取り込みにより、ボディは高度化や汎用化が進んだことで、ロボットは適用範囲が拡大し、さらに身近な存在となっています。

頭脳 考える技術

AI



Artificial Intelligence (人工知能) のことで、人間の脳が行なっている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステムのことです。

Big Data



Bigdata (ビッグデータ) とは、ただ単に大量の情報を指すのではなく、これまで情報として扱われていなかったような多種多様な情報を生かす新たな仕組みです。

神経 感じる・伝える技術

ビジョンシステム、センサー



ビジョンシステムはロボットにおける目の役割を果たします。対象とするモノを画像として取り込み処理を行います。また、動きや位置を知るセンサー、高さや距離を測るセンサーなど様々なセンサーが開発されています。

5G、IoT



5G: 5th Generation (第5世代移動通信システム) のことで、多数接続・超低遅延などが特徴の通信です。ネットワークにつながるモノの爆発的な増加につながります。IoT: Internet of Things (モノのインターネット) のことで、コンピュータ以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすることができます。

ボディ 動かす技術

協働化



ロボットの安全性向上により、一定の条件で人間との協業が可能になりました。

小型化



従来大型ロボットから、小型で応用範囲の広いロボットの開発が進んでいます。

低価格化



ロボット価格の低下でロボット導入が容易となります。

多くのロボットがネットワークにつながり、情報に基づき一体化
今までにない分野・次元で自動化・省力化を実現するロボット・テクノロジー革命が広がる

タクシー



医薬品開発



警備



配送



食品製造



農業



ファンドの特色

1 日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資します。 ※株式・DR(預託証券)を含みます。

当ファンドにおけるロボット関連企業とは

ロボット・テクノロジーの開発や製造などにより、ビジネスを展開する企業を指します。

着目点

複雑 不便 危険
な作業

ロボット・テクノロジーにより、
人間の作業を代替・自動化



テーマの選定

(例)



※ 上記はテーマの一例であり、上記以外のテーマにも投資する可能性があります。

2 株式の運用は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが担当します。

アクサ・インベストメント・マネージャーズについて

- 数多くのテーマ運用で豊富な実績を有するアクサ・インベストメント・マネージャーズは、世界最大級の保険・資産運用グループであるアクサ・グループの資産運用部門です。
- 1994年に設立され、運用資産総額は8,871億ユーロ(約116兆円)です。(2021年12月末現在)

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色 1.~2.の運用が行なわれないことがあります。

分配について

年2回決算を行なうタイプ

ロボテック ロボテック(為替ヘッジあり)
●毎年3月13日および9月13日(休業日の場合、翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

年1回決算を行なうタイプ

ロボテック(年1回) ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)
●毎年9月13日(休業日の場合、翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

分配方針

◆分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等とします。	◆分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等とします。
◆原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわれないことがあります。	◆原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわれないことがあります。

※各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
 「ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボテック-」: ロボテック
 「ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボテック(為替ヘッジあり)」: ロボテック(為替ヘッジあり)
 「ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) -ロボテック(年1回)-」: ロボテック(年1回)
 「ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) -ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」: ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)

当ファンドの投資対象

当ファンドでは、「作る」「運ぶ」「助ける・守る」の3つのテーマに着目しています。頭脳部分はAI、神経部分は5Gなどの先端技術を取り込み一体化することで、更にロボットの重要性が増すことが期待されます。



当ファンドの着目テーマ



自動化によって正確性と効率性が高まり付加価値が上昇する領域
具体例 生産工程の産業用ロボット、物流倉庫の自動化

自動化によって安全性、利便性が向上する領域
具体例 電車・自動車の運転補助 人による操作が不要な完全自動運転車

自動化によって健康や災害・セキュリティ面で生活の質が向上する領域
具体例 医療補助、遠隔手術、デジタル・ヘルスケア、警備、救助

なぜこの3つのテーマに着目したのかを、次ページ以降でご紹介いたします。

※上記はテーマの一例であり、上記以外のテーマにも投資する可能性があります。

「作る」

着目テーマ

自動化によって、 正確性と効率性が高まり付加価値が上昇

一般に「作る」ロボットという生産工程で 사용되는産業用ロボットが思い浮かぶでしょう。
当ファンドの「作る」には、生産された製品を保管し消費者のもとへ出荷する過程までが含まれます。

注目技術 「物流倉庫の自動化」

今までのロボットは、扱う商品の形状・サイズごとに、すべての動き方を人が指示
最新のロボットはAIやビジョンシステムを搭載し、自ら動き方を学習
このような考える技術・感じる技術により、異なる形状・サイズの商品を多く取り扱うeコマース向け倉庫などでも自動化が進む



「作る」代表的企業

「ダイフク」
業種：資本財・サービス
日本

マテリアル・ハンドリング、物流ソリューションのグローバル・リーダー。同社の商品は、eコマースを含む流通分野の自動倉庫、半導体、液晶、自動車などの生産ラインの搬送システム、空港の手荷物搬送システムなど幅広い分野に提供されている。売上の65%超は海外市場から計上。



※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。
(出所) Statista、各種資料より大和アセットマネジメント作成

eコマース市場の拡大は、物流分野での自動化を強く後押し



※eコマース売上高の2022年以降は予想、小売売上高全体に占めるeコマースの割合の2021年以降は予想。※支払い方法に関係なく、任意のデバイスを通じて注文された製品またはサービスが含まれます。旅行やイベントのチケットは含まれません。

「運ぶ」

着目テーマ

自動化によって、 安全性、利便性が向上

2030年にはほとんどの新車が何かしらの運転自動化機能を持つ見通しです。公道での実証実験、さらには商用化も一部で開始され、レベル5の完全運転自動化実現に向けた開発競争が加速しています。
将来的には、都市の交通システム全体がインターネットにつながり、自動化することで、移動の概念が大きく変わることが期待されます。

注目技術 「自動運転システム」

現在市販されている車のなかで最高レベルとなる車は、既に20個を超えるセンサー(感知器)を搭載。レベル5実現に向けて、必要不可欠なセンサー・半導体の市場はますます巨大に

短/中距離、長距離レーダー
電波を利用して距離や方向を測定。光源や天候の影響を受けにくい。

LIDAR(ライダー)
レーザー・スキャナーとも呼ばれる。赤外線レーザーを利用し、3次元の精度の高い観測が可能。

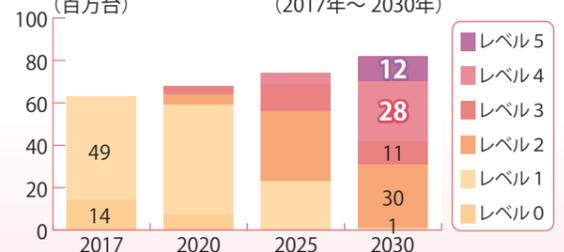
カメラ
人間の目に似た原理で画像を認識。

緊急ブレーキ
歩行者検出
衝突回避
車間距離測定
定速走行

交通標識認識
交差警報
パーキング・アシスト
車線維持



自動運転車のレベル別販売台数の予測 (2017年～2030年)

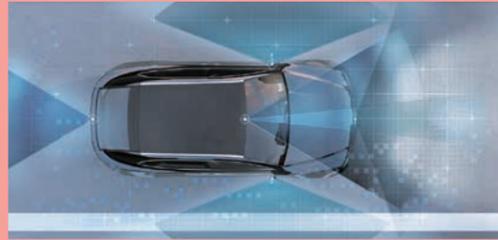


※米国・欧州・中国における販売台数の予測値。
(出所)「PwC Strategy& デジタル自動車レポート2017」のデータを基に、アクサ・インベストメント・マネージャーズ作成

「運ぶ」代表的企業

「テキサス・インスツルメンツ」
業種：情報技術
米国

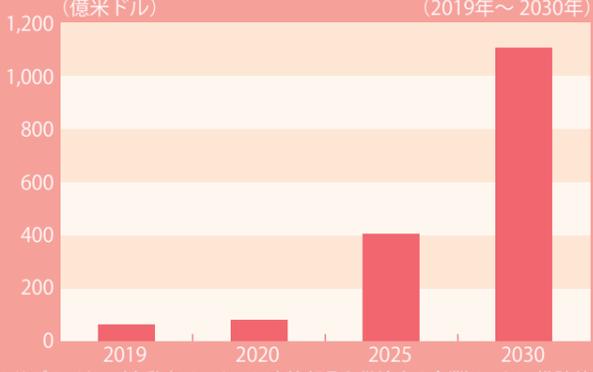
米国の半導体大手。産業用および自動車用の半導体が事業の中核。自動車用では、電気自動車、コネクテッド・カー、自動運転車に搭載される先進運転支援システム向けのカメラ、レーダー、センサーなどの他、車載インフォテインメント機器、バッテリー管理システムなどに組み込まれる半導体を提供しており、成長分野と位置付けている。



※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。
(出所) Citi「CAR OF THE FUTURE v4.0」よりアクサ・インベストメント・マネージャーズ作成、各種資料より大和アセットマネジメント作成

高度な自動運転を実現する過程で、巨大な市場が広がる

先進運転支援システムの市場*規模



*Tier1サプライヤー(自動車メーカーに直接部品を供給する企業)レベル。推計値。



自動化によって、健康や災害対策面で生活の質が向上

今までの「助ける・守る」ロボットは、手術用ロボットを中心として広がりを見せてきました。これからは、生体モニタリングシステムといった患者の状態を24時間把握する技術や、考える技術を利用したゲノム解析、医薬品開発を助けるロボットなども登場し、新たな用途へも広がりを見せています。

注目技術 「デジタル・ヘルスケア」

生体モニタリングシステムにより、患者の状態を24時間記録蓄積されたデータを活用し、正確で効率的な診断が可能に



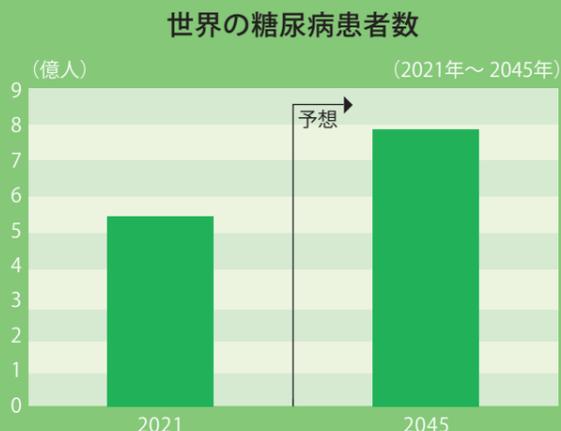
「助ける・守る」代表的企業

「デクスコム」
業種：ヘルスケア
米国

米国の医療機器メーカー。糖尿病患者向けの血糖値モニタリング・システムの設計・開発を行なう。IoT小型体外受信器を用いた継続的な血糖値モニタリングを実現し、患者の正確なデータに基づいた対処・健康管理が可能に。糖尿病患者の継続的な増加が予想される中、長期的な成長が見込まれる。



世界の糖尿病患者数は、2025年までに約1.5倍増加する見通し



※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。
(出所) Statista、各種資料より大和アセットマネジメント作成

「ロボテック」のパフォーマンス

「ロボテック」は高い成長性が期待できるロボット・テクノロジー関連企業に投資を行なっていることなどから、設定来では、世界株式をアウトパフォームしています。

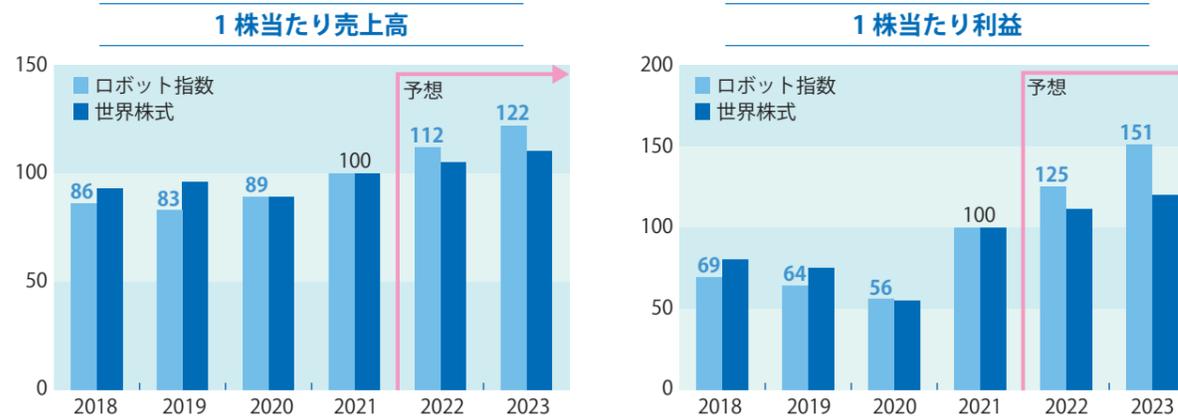
「ロボテック」と世界株式のパフォーマンス比較



今後のポイント

ロボット関連企業の業績は世界株式構成企業の業績と比較し、高い見通しとなっており、今後も高いパフォーマンスが期待されます。

業績見通し(2018年～2023年)

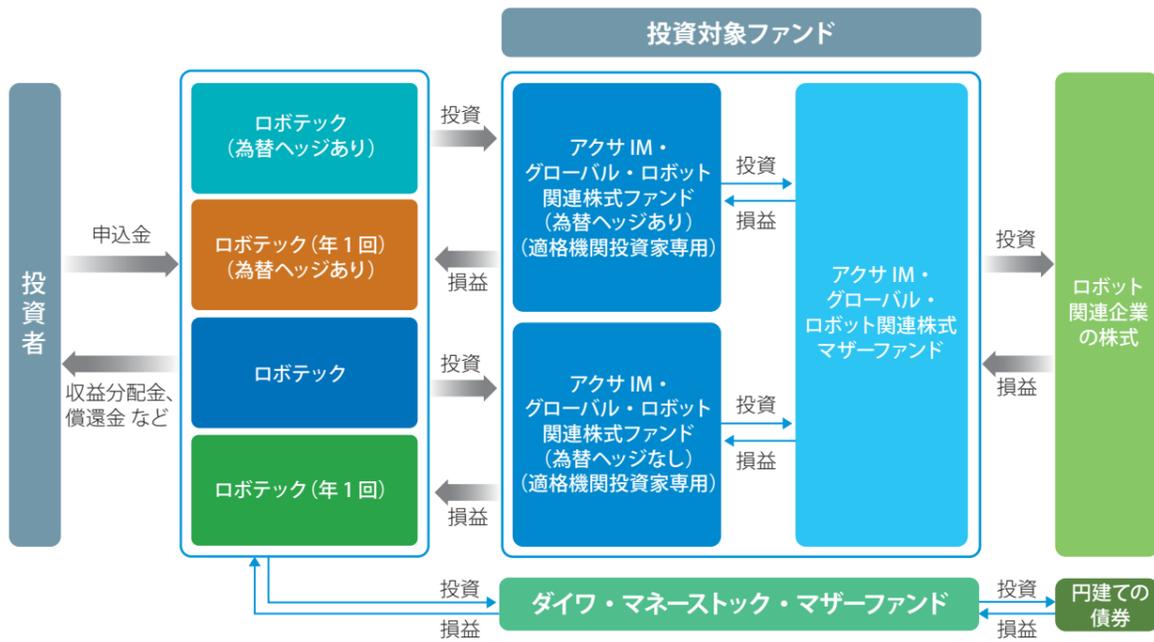


※「ロボット指数」はROBO Global Robotics and Automation UCITS Index、「世界株式」はMSCI ACWI Indexを使用。
※予想1株当たり売上高と予想1株当たり利益は、ブルームバーグが集計したアナリスト予想の平均値(2022年4月時点)。
2021年を100として指数化。

(出所) ブルームバーグ、アクサ・インベストメント・マネージャーズ

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、ロボット関連企業の株式に投資します。



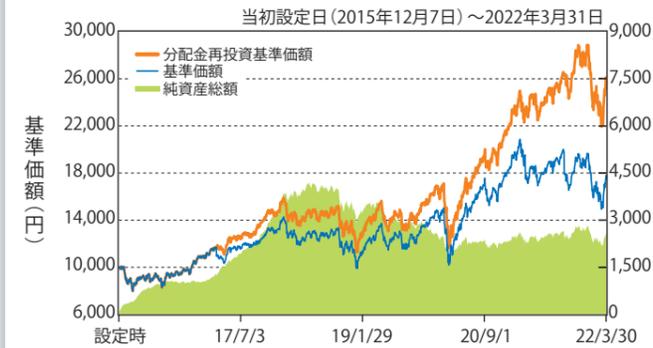
投資対象ファンドについて

- アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)およびアクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)は、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が設定・運用を行ないます。
- 株式の運用の指図に関する権限を、アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドに委託します。
※アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドは、アクサ・インベストメント・マネージャーズのロンドン拠点です。
※投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資対象ファンドの概要」をご参照ください。
- アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)またはアクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)への投資割合を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。
- アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)は、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。
※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因によっては、さらにコストが拡大することもあります。
(注)一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行なわないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があります。
- アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)は、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジを原則として行ないません。

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

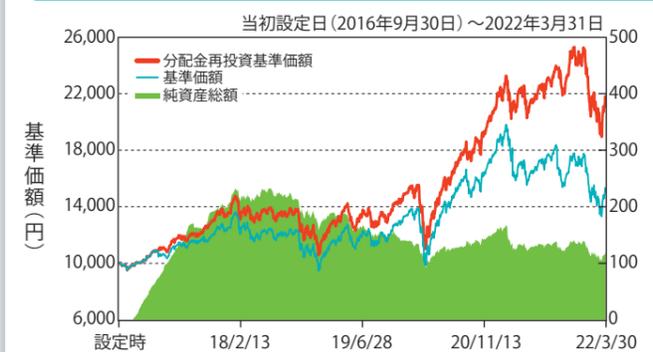
ファンドの運用状況 基準価額・純資産、分配の推移(基準日:2022年3月31日)

ロボテック



基準価額	17,527円	純資産総額	2,559億円
期間別騰落率	ファンド	分配の推移(1万口当たり、税引前)	
1カ月間	+7.1%	決算期(年/月)	分配金
3カ月間	-10.2%	第1期~第9期	合計1,550円
6カ月間	+1.9%	第10期('20/9)	800円
1年間	+10.1%	第11期('21/3)	1,900円
3年間	+82.5%	第12期('21/9)	1,900円
5年間	+118.8%	第13期('22/3)	0円
年初来	-10.2%	設定来分配金合計額	6,150円
設定来	+157.4%		

ロボテック(為替ヘッジあり)



基準価額	15,100円	純資産総額	117億円
期間別騰落率	ファンド	分配の推移(1万口当たり、税引前)	
1カ月間	+2.5%	決算期(年/月)	分配金
3カ月間	-14.2%	第1期~第3期	合計1,300円
6カ月間	-4.7%	第4期~第7期	各0円
1年間	+2.1%	第8期('20/9)	750円
3年間	+65.4%	第9期('21/3)	1,800円
5年間	+93.0%	第10期('21/9)	1,500円
年初来	-14.2%	第11期('22/3)	0円
設定来	+114.8%	設定来分配金合計額	5,350円

ロボテック(年1回)



基準価額	29,494円	純資産総額	157億円
期間別騰落率	ファンド	分配の推移(1万口当たり、税引前)	
1カ月間	+7.0%	決算期(年/月)	分配金
3カ月間	-10.2%	第1期('16/9)	0円
6カ月間	+1.9%	第2期('17/9)	0円
1年間	+9.8%	第3期('18/9)	0円
3年間	+82.5%	第4期('19/9)	0円
5年間	+119.0%	第5期('20/9)	0円
年初来	-10.2%	第6期('21/9)	0円
設定来	+194.9%	設定来分配金合計額	0円

ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)



基準価額	21,267円	純資産総額	31億円
期間別騰落率	ファンド	分配の推移(1万口当たり、税引前)	
1カ月間	+2.4%	決算期(年/月)	分配金
3カ月間	-14.2%	第1期('17/9)	0円
6カ月間	-4.6%	第2期('18/9)	0円
1年間	+2.2%	第3期('19/9)	0円
3年間	+64.4%	第4期('20/9)	0円
5年間	+91.8%	第5期('21/9)	0円
年初来	-14.2%	設定来分配金合計額	0円
設定来	+112.7%		

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除して計算しています(「ファンドの費用」をご覧ください)。※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

投資対象ファンド*の運用状況 (基準日:2022年3月31日)

*アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)

※比率は、組入ファンドの純資産総額に対するものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国株式	48	83.0%
日本株式	8	12.7%
現金等		4.3%
合計	56	100.0%

株式 通貨別構成		合計95.7%
通貨名		比率
米ドル		69.4%
日本円		12.7%
ユーロ		8.8%
台湾ドル		2.4%
英ポンド		1.7%
ノルウェー・クローネ		0.8%

株式 業種別構成		合計95.7%
業種名		比率
半導体・半導体製造装置		28.4%
資本財		17.4%
テクノロジー・ハードウェア		13.7%
ヘルスケア機器・サービス		13.6%
ソフトウェア・サービス		9.6%
医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス		3.4%
メディア・娯楽		3.1%
小売		3.0%
自動車・自動車部品		1.8%
食品・生活必需品小売		1.0%
運輸		0.7%

株式 国・地域別構成		合計95.7%
国・地域名		比率
アメリカ		62.4%
日本		12.7%
ドイツ		5.5%
台湾		2.4%
フランス		2.0%
オランダ		1.9%
ジャージー		1.8%
イギリス		1.7%
アイスランド		1.3%
その他		4.1%

株式 規模別構成		合計95.7%
規模		比率
大型株(時価総額100億米ドル超)		75.1%
中小型株(時価総額100億米ドル以下)		20.5%

組入上位10銘柄				合計29.1%
銘柄名	国・地域名	業種名		比率
クアルコム	アメリカ	半導体・半導体製造装置		3.3%
デクスコム	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス		3.2%
アルファベット	アメリカ	メディア・娯楽		3.1%
インテュイティブサージカル	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス		3.0%
アマゾン・ドット・コム	アメリカ	小売		3.0%
キーエンス	日本	テクノロジー・ハードウェア		2.9%
エヌビディア	アメリカ	半導体・半導体製造装置		2.9%
シリコン・ラボラトリーズ	アメリカ	半導体・半導体製造装置		2.7%
テラダイン	アメリカ	半導体・半導体製造装置		2.6%
アップル	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア		2.5%

※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。※上記データは、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日のデータに基づきます。※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。※株式業種別構成および組入上位10銘柄の業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)の産業グループによるものです。※ジャージーは英王室直轄領で、税率が低いなどの税制優遇措置が設けられているため、本社や子会社を登記する企業が多い地域です。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金とは異なります。

主な変動要因

株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。当ファンドは、特定の業種への投資比率が高くなるため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。	
為替変動リスク	ロボテック	ロボテック(年1回)
	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。	
為替変動リスク	ロボテック(為替ヘッジあり)	ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)
	為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があるため、為替変動の影響を受けることがあります。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。	
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となる場合があります。新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。	
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。	

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

リスクの管理体制

- 委託会社では、取締役会が決定した運用リスク管理に関する基本方針に基づき、運用本部から独立した部署および会議体が直接的または間接的に運用本部へのモニタリング・監視を通じ、運用リスクの管理を行ないます。
- 委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行ないます。
- 取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

お申込みメモ(りそな銀行・埼玉りそな銀行でお申込みの場合)

購入単位	1万円以上1円単位 収益分配金は「再投資」と「定期引出」のご選択が可能です。 「定期引出」をご希望されるお客さまは、別途定期引出契約をお申込みください。								
購入・換金価額	申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)								
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。								
申込受付中止日	ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ニューヨークの銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日 (注)申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせください。								
申込締切時間	午後3時まで(販売会社所定の事務手続きが完了したものの)								
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。								
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情(投資対象国における非常事態による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等)が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入の申込みを取消すことがあります。								
スイッチング(乗換え)	当ファンドはスイッチング対象ファンドです。販売会社によっては、スイッチング(乗換え)のお取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせください。								
信託期間	<table border="1"> <tr> <td>「ロボテック(為替ヘッジあり)」</td> <td>2016年9月30日から2025年9月12日まで</td> </tr> <tr> <td>「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「ロボテック」</td> <td>2015年12月7日から2025年9月12日まで</td> </tr> <tr> <td>「ロボテック(年1回)」</td> <td>2016年2月8日から2025年9月12日まで</td> </tr> </table> <p>受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長できます。</p>	「ロボテック(為替ヘッジあり)」	2016年9月30日から2025年9月12日まで	「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」		「ロボテック」	2015年12月7日から2025年9月12日まで	「ロボテック(年1回)」	2016年2月8日から2025年9月12日まで
「ロボテック(為替ヘッジあり)」	2016年9月30日から2025年9月12日まで								
「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」									
「ロボテック」	2015年12月7日から2025年9月12日まで								
「ロボテック(年1回)」	2016年2月8日から2025年9月12日まで								
繰上償還	<p>◎「ロボテック(為替ヘッジあり)」および「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」が主要投資対象とするアクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)が存続しないこととなる場合、または「ロボテック」および「ロボテック(年1回)」が主要投資対象とするアクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させます。</p> <p>◎次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●受益権の口数が30億口を下回るようになった場合 ●信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき ●やむを得ない事情が発生したとき 								
決算日	<table border="1"> <tr> <td>「ロボテック(為替ヘッジあり)」</td> <td>毎年3月13日および9月13日(休業日の場合、翌営業日)</td> </tr> <tr> <td>「ロボテック」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「ロボテック(年1回)」</td> <td>毎年9月13日(休業日の場合、翌営業日)</td> </tr> </table>	「ロボテック(為替ヘッジあり)」	毎年3月13日および9月13日(休業日の場合、翌営業日)	「ロボテック」		「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」		「ロボテック(年1回)」	毎年9月13日(休業日の場合、翌営業日)
「ロボテック(為替ヘッジあり)」	毎年3月13日および9月13日(休業日の場合、翌営業日)								
「ロボテック」									
「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」									
「ロボテック(年1回)」	毎年9月13日(休業日の場合、翌営業日)								
収益分配	<table border="1"> <tr> <td>「ロボテック(為替ヘッジあり)」</td> <td>年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。</td> </tr> <tr> <td>「ロボテック」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「ロボテック(年1回)」</td> <td>年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。</td> </tr> </table> <p>(注)当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせください。</p>	「ロボテック(為替ヘッジあり)」	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。	「ロボテック」		「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」		「ロボテック(年1回)」	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
「ロボテック(為替ヘッジあり)」	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。								
「ロボテック」									
「ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)」									
「ロボテック(年1回)」	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。								
課税関係	<p>課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。</p> <p>なお、当ファンドの非課税口座における取扱いは販売会社により異なる場合がありますので、くわしくは、販売会社にお問合わせください。</p> <p>※税法が改正された場合等には変更される場合があります。</p>								

ファンドの費用(りそな銀行・埼玉りそな銀行でお申込みの場合)(消費税率10%の場合)

お客さまが直接的に負担する費用

	料率等		費用の内容	
	取得申込総金額	手数料率		
購入時手数料	取得申込総金額に応じて右記料率を申込受付日の翌営業日の基準価額に乗じて得た金額となります。(収益分配金の再投資の際には購入時手数料はかかりません。)	3,000万円未満	3.3%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
	※マイゲート(インターネットバンキング)または定時定額購入プラン(積立投資信託)でご購入の場合は、表記手数料率から30%優遇となります。	3,000万円以上5,000万円未満	2.2%(税抜2.0%)	
		5,000万円以上1億円未満	1.1%(税抜1.0%)	
		1億円以上3億円未満	0.55%(税抜0.5%)	
	3億円以上	なし		
	※スイッチング(乗換え)にかかる購入の申込時の購入時手数料は1.10%(税抜1.0%)となります。スイッチングサービスは、各支店窓口のみ取扱いとなります。ただし、販売会社によってはスイッチング(乗換え)のお取扱いが異なる場合があります。くわしくは販売会社にお問合わせください。			
信託財産留保額	ありません。		—	

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
運用管理費用(信託報酬)	年率1.2375%(税抜1.125%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。ロボテック、ロボテック(為替ヘッジあり)の場合、運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。ロボテック(年1回)、ロボテック(年1回)(為替ヘッジあり)の場合、運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6か月終了日(休業日の場合、翌営業日)および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。
投資対象とする投資信託証券	年率0.5775%(税抜0.525%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する運用管理費用	年率1.815%(税込)程度	
その他の費用・手数料	「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。



大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

【受託会社】 ファンドの財産の保管、管理等を行ないます。株式会社りそな銀行

【委託会社】 ファンドの運用の指図等を行ないます。大和アセットマネジメント株式会社

お電話によるお問い合わせ先

☎0120-106212(営業日の9:00~17:00)

委託会社のホームページアドレス

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

【販売会社】 ファンドの募集の取扱い等を行ないます。株式会社りそな銀行・株式会社埼玉りそな銀行ほか

■当資料は、大和アセットマネジメント株式会社により作成された販売用資料です。当ファンドの取得をご希望の場合には「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。■投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。■投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。■分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■当資料で掲載した画像等はイメージです。■当資料でご紹介した企業はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに組入れることを示唆・保証するものではありません。